

## 2 ギリガン神父のバラッド

年老いた神父のピーター・ギリガンは  
昼も夜も 疲れ果てていた  
教区の信者の半分もが 病の床に臥すか  
草葉の床に永眠る有り様だったから

ある日の夕暮れ時 蛾の群がる時刻 5  
椅子でうたた寝していると  
また一人の哀れな男が 使いを寄越してきた  
ギリガン神父は嘆いて言った

「わたしには 休息も楽しみも安らぎもない  
人々が次から次へと死んでゆく」 10  
そのあとで 神父は叫んだ「神様 お赦してください  
今言ったのはわたしの肉体 本心ではないのです」

神父はひざまずき 椅子にもたれて  
お祈りをしながら眠りこけてしまった  
田圃に蛾の群がる時刻は過ぎて 15  
星が瞬きはじめた

やがて無数の星が輝き出して  
木の葉が夜風に揺れた  
神はこの世を闇でつつみ  
人々に慰めの言葉をかけた 20

雀がさえずる時刻  
蛾がふたたび飛びかいはじめたころ  
年老いた神父のピーター・ギリガンは  
はっとして 床に起ちあがった

「ああ ああ わたしが椅子に眠っている間に 25  
あの男は死んでしまった」  
神父は 眠っている馬を起こして  
荒々しく駆け出した

神父は 岩だらけの小道や沢を  
いつにない勢いで馬を走らせた 30  
病人の女房<sup>かみ</sup>さんがドアを開けた

「神父様 またいらしたのですか」

「それで ご主人はお亡くなりには？」

「主人は 一時間ほど前に亡くなりました」

年老いた神父のピーター・ギリガンは 35  
からだを揺すって悲しんだ

「神父様がお帰りになると 主人は寝返りを打って  
小鳥のように陽気に息を引きとりました」

年老いた神父のピーター・ギリガンは 40  
その言葉を聞いて ひざまずいた

「死ぬほど草臥<sup>くたび</sup>れた魂<sup>もの</sup>たちを慰めるため  
夜空を星で飾られる神様が  
困っているわたしを助けるために  
貴い天使の一人を遣わされた

「紫<sup>みそ</sup>の御衣につつまれ 45  
天津星<sup>あまつぼし</sup>の世話までなさる神様が  
椅子に眠りこけたこの世でいちばん小さな存在<sup>もの</sup>に  
慈悲<sup>なさけ</sup>を啓示<sup>しめ</sup>された」

(山中光義訳)